



ピースデポ

平和資料協同組合

会報

No.14

2004.4.1

Peace Depot (Peace Resources Cooperative)

発行人: 梅林宏道 / 住所: 〒223-0051 横浜市港北区箕輪町3-3-1日吉グリーンネ102
TEL: 045-563-5101 / FAX: 045-563-9907 / E-mail: office@peacedepot.org
郵便振替: 00250-1-41182 特定非営利活動法人ピースデポ
銀行口座: 横浜銀行日吉支店 普通 1561710 特定非営利活動法人ピースデポ

広島・長崎被爆60周年 / 2005NPT再検討会議
ピースデポは
平和のための市民のシンクタンクとして
2005年に向けて
始動します!

田巻一彦



2003年から2004年、私たちは
はまだ経験したことのない
激動を目の当たりにしました。
世界の反戦世論も、国際
法の支配も振り切って強行さ
れたイラク戦争。日本の戦争
支持表明。有事三法の成立、
そしてイラク特措法とそれに
基づく自衛隊イラク派兵・・・
平和を求める運動は、大きな
試練にさらされています。20

05年は広島・長崎の被爆から
60年であり、NPT再検討会議が開かれる年です。これからの一
年は、平和のための市民のシンクタンク・ピースデポの存在意
義がますます問われることになるでしょう。そのような緊張感
の中で第6回総会は準備されました。発足以来、東京で開かれ
る初めての総会。久しぶりに会う顔、初めて挨拶した会員の方
・・・さまざまな人々の参加で、暖かい、しみじみとした雰囲気
の総会を持つことができました。

服部学、前田哲男両理事と青柳絢子監事が総会をもって退
任されました。これまでの貢献に心から感謝いたします。新し
く、小笠原公子さんが理事に、大沢一枝さんが監事に就任しま
した。ご出席がななかつた会員や助言者の皆さんからも、た
くさんの励ましや提案のメッセージをいただきました。議長を
務めてくださった片岡栄子さん、お手伝いいただいたボラン
ティアの皆さん、沢山の方々のご協力で開けて総会でした。あ
らためて感謝いたします。

総会で合意されたプログラムを着実に実現することこそ
が、ご協力や励ましへのお返しになることと、スタッフ一同、心
を引き締めております。将来への希望のを見つけ出す一年にし
たいと思います。

ピースデポ総会記念イベント

総会協賛企画として、2月21日、日本平和
学会関東地区研究会、環境・平和研究会と
の共催で日本青年館で開催しました。

ビキニ研究集会に参加して

佐々木律子

2月21日に開催されたビキニ水爆被災50周年研究集会に
は、会場収容人数をはるかに超える約140人が来聴し、立ち見
が出るほどだった。そのほとんどが、ご年配の方々だったが、学
生らしい若い人々の姿も全体の四分の一ほど見られた。

研究集会の第一部では、メアリー・シルク氏、竹峰誠一郎氏、
中原聖乃氏、そして、山下正寿氏が報告された。

メアリー・シルク氏からは、マーシャル諸島共和国の歴史や
位置をスライドを使用しながら、説明していただいた後に、50
年前のビキニ事件が住民にどのような影響を与えているのか
を現地の目から報告された。特に、ビキニ水爆実験で汚染され
たため、自分の島に帰れない人々がいるという報告は印象深
かった。

竹峰氏は、「マーシャル諸島にみる『死の灰』の今日的影響」
と題して、ビキニ水爆が住民に与えた影響を健康面と生活面
の両面から報告した。健康面では、水爆被災後の住民に腫瘍
や甲状腺癌が表れたこと、流産・死産、先天性障害をもった子
供が生まれたことなど、放射線に起因する病気が多発したこ
とを現地住民の証言を用いて報告した。生活面では、水爆実験



2月21日、ビキニ被災50周年研究集会にて話をするメアリー・シルクさん。
正面中央から2人目。

が、住み慣れた土地を奪い、生活環境が変わり、さらには、伝統文化が衰退したと述べられた。

中原氏は「被曝補償金をめぐる対立と合意形成」と題して、ビキニ水爆後の今日の影響を生活面からより詳しく報告した。冒頭では、中原氏が現地調査で撮ってきた島の写真がスライドに映し出され、島の生活をより身近に感じることが出来た。報告は、マーシャル諸島における被曝補償金をめぐる対立と解消までを具体的な事例を通して説明された。

山下氏は、ご自身が中心となっている高知県ビキニ水爆実験被災調査団編集の「もうひとつのビキニ事件 - 1000隻を超える被災船を追う」の抜粋を資料とし、調査の結果や経緯を報告した。報告は、第五福竜丸だけでなく、多くの船が被曝したことやその船が今は韓国等の他国にあること、高知県にも多くの元船員の方がいらっしゃるなど、今までとは違った視点を与えるものであった。

第二部では、来場されていた第五福竜丸の元船員、マーシャル諸島を調査された記者、そして実際に2年間マーシャル諸島に赴任されていた元青年海外協力隊隊員など、様々な形でマーシャル諸島やビキニ水爆に関わってきた方々から、ご自身のご経験を聞くことが出来た。その後、会場からは、補償金問題や住民の病状などに関する質問や意見が、時間が足りないほど多く出された。

今回の研究集会には、年代を問わず多くの人々が参加し、非常に関心が高いことがわかった。また、各報告者が身近に見聞きしてきたミクロな視点からの報告は、大きく捉えがちな核実験を身近なものに引き寄せ、新しい視点を投げかけた。個人的には、ビキニ水爆実験から50年経った今も、住民や元船員に影響を及ぼし続けていること、大きな実験の影には多大な影響を受けた住民たちがいること、そして、それは、健康面だけでなく、生活や文化などの文化人類学的な側面にも及んでいることなど、学ぶことの多い研究集会であった。

ピースデポ総会記念イベント

ビキニ水爆被災50周年研究集会

あれから半世紀

いま「ビキニ水爆被災」の意味を問う!

2004年2月21日(土) 於: 日本青年館

<プログラム>

部: マーシャル諸島現地報告

メアリー・シルク(マーシャル諸島短期大学核研究所所長)

「マーシャル諸島からみた『ビキニ水爆被災』50周年」

中原聖乃(神戸大学大学院総合人間科学研究科博士後期課程・人類学専攻)

「被曝補償金にみる対立と合意形成」

竹峰誠一(早稲田大学大学院アジア太平洋研究科博士後期課程・国際関係学専攻)

「マーシャル諸島にみる『死の灰』の今日的影響」

部: 討論「ビキニ水爆被災」が今に問いかけるもの

司会・コーディネーター: 豊崎博光(フォトジャーナリスト)

パネリスト: 前田哲男(東京国際大学教授) 横山正樹(フェリス学院大学教授) ほか

共催: 日本平和学会関東地区研究会 / NPO法人ピースデポ / 環境平和研究会

総会報告

2004年度の事業計画が決まりました!

2月22日に青山、こどもの城にて初の東京での総会を開催しました。議長は会員の片岡栄子さんが選出されました。そこで採択された今年の事業計画を抜粋して紹介します。

2005年に向けて始動!!

2005年に向けた核廃絶世論形成への貢献

2004年は、ビキニ環礁における核実験被災から50年の年であり、2005年はヒロシマ・ナガサキの被爆から60年の節目を迎える。2005年にはNPT再検討会議が開かれる。このように2004年～2005年は、核廃絶の市民の主張をいっそう高くして訴え、具体的な変革への動きを作り出す歴史的機会である。核軍縮の分野でのピースデポの蓄積を最大限に活かしてこのプロセスに貢献していく。

北東アジア地域安全保障への重点的取り組み

朝鮮民主主義人民共和国の核問題を巡る緊迫した国際政治の展開、拉致事件を契機とした日本国内の排外主義的・差別的風潮の拡大、ミサイル防衛の導入本格化、「国民保護法制」や「米軍支援法制」などの有事法制の進展、そしてこれらと呼応した「防衛計画大綱」の見直し、さらには憲法改正の議論……これらの現実政治・外交プロセスと切り結び、「北東アジア地域の〈共通の安全保障〉」を市民の側から対置していくための強力な取り組みが求められている。その意味で2003年に本格化した「ヨタ助成研究」市民社会が構想する北東アジアの地域安全保障の取り組みの意義がますます高まっている。まとめの時期を迎える2004年は、同プロジェクトへの重点的取り組みをとおして地域安全保障分野での発信を一層強化していく。

中期ビジョンの点検と改善 = スタッフ3人体制の復元と組織体制の整備

2002年の「ピースデポ中期ビジョン」は、組織状況の変化により短期的に見直し(改訂)を強いられた。2003年には、その柱である「核兵器・核実験モニター」の誌面刷新と編集体制の強化、そして「新版イヤブック」の構想の具体化と刊行体制の準備という基礎がつけられた。これをピースデポの財政・経営基盤の改善・確立へとつなげていくために、「中期ビジョン委員会」による進捗状況の点検と改善を絶えず図っていく。2004年を「改訂中期ビジョン」の初年度と位置づける。常勤スタッフ3人体制を早期に復元する。新スタッフは研究活動の充実を重視して人選する。また、日常的な組織運営、渉外・営業活動の面でも事務局の機能強化を図る。会員、出版物の固定読者の拡大については数値目標を設定し実現のために努力する。

事業計画 新プログラム

(1) 2005年NPT再検討会議に向けた取り組み

2005年NPT再検討会議を核兵器廃絶のための歴史的な機

会として活かそうという、自治体(平和市長会議)のイニシアティブや国際的なNGO呼びかけに呼応して、日本国内でもNGOの動きが始まろうとしている。ピースデポとしては、このような動きを、情報・リソース面から強力に支援し、核廃絶に向け、日本政府に核政策の転換を迫るような市民の主張を作り上げていくプロセスに積極的に参画していく。具体的には次のような活動を計画する:

「平和市長会議」呼びかけの緊急行動を支援する日常的情報活動、支援活動。

「核軍縮・日本の成績表」と新版イヤブック「核軍縮・平和・自治体」の市民活動の活性化のためのリソースとしての活用。フリーフィンギング・ペーパー、一般向け啓蒙パンフレットの編集・発行と普及。

各地でのセミナーやスピーキング・ツアーの企画と実行等

(2) 新版イヤブック「核軍縮・平和・自治体」の編集・発行・普及

中期ビジョンの四本柱の一つであり、すでに2003年度から準備が始まっている。核廃絶を求める2005年への動きに加え、日本国内では「防衛計画の大綱」見直しやミサイル防衛など具体的な政治課題が山積している。これらに対して、「共通の安全保障」「自治体の平和力」をキーワードとした市民の政治参画をより強め、広げていくことに役立つ事実関係やデータを提供するものにしたい。A5版の親しみやすい体裁とし、近い将来は書店販売可能な仕様にする。1300部を発行。完売を目指す。

(3) 日本の防衛予算に関する系統的調査・分析

日本の防衛予算に関する市民の視点からの調査・分析をピースデポの継続的活動として立ち上げる。調査成果は「核兵器・核実験モニター」の紙面で発表するほか、適宜、投稿、刊行物などの形で公表する。

総会で提案、採択される事業

総会当日開かれた地域ポスト会議より提案を受け、下記の2点が総会で取り組む事業として採択された。

会員拡大、または出版物販売のため、地域ポストが活用できる自治体への販売推奨キットの作成。

核兵器廃絶 2005NPT市民連絡会議の総合連絡窓口をピースデポが担当する。また、国際的な「シティ・キャンペーン」に関する国際的な動きの伝達と日本各地の動きの収集、情報発信を担う。

継続プログラム

(1) 研究プロジェクト「市民社会が構想する北東アジア地域安全保障の枠組み」の推進

研究内容

東アジア非核地帯

「モデル非核地帯条約」の作成、海洋問題に関する検討。

北東アジア専守防衛地帯

文献に基づいて「再構築」された概念に照らして日本の防衛政策の現状批判を行い、地域化の枠組みとプロセスを提案。

ミサイル管理

北東アジアのミサイル・データベースのアップデートを進め、北東アジア・ミサイル制限レジームの概念とそれを達成するための段階的プロセスを提案。



2月22日、こどもの城にて、ピースデポ総会。

ARF(アセアン地域フォーラム)の活用

最終的には、ARFの「可能性リスト」の作成をめざす。

国際会議の開催

ニューヨーク・ワークショップ

テーマ: 東北アジア非核地帯モデル条約

日時: 04年4月28日(水) 午後3時~6時(予定)

ニューヨーク国連本部会議室

主催: ピースデポ、韓半島平和市民ネットワーク

上海ワークショップ

テーマ: 東北アジア非核地帯とミサイル管理

日時: 04年7月16日(金)~18日(日)

場所: 復旦大学米国研究所(上海)

主催: NPO法人ピースデポ、復旦大学米国研究所

まとめとフォローアップ

本プロジェクトは2004年10月に終了する。11月にはトヨタ財団への義務的報告を提出する。同報告には「提言の骨子」を含める。この他、ピースデポとして以下のような自主的な活動を計画し、その準備を進める。

提言冊子 2005年7月発行予定

まとめのシンポジウム 2005年夏または秋。ソウルにて。

(2) 核兵器・核実験モニターの月2回1日、15日発行

核兵器・核軍縮、アジア太平洋地域安全保障(日米安保、防衛計画大綱見直し、有事法制と自衛隊の海外活動など)を中心テーマとし、資料性を重視した編集とする。2005年に向けた核廃絶キャンペーンのための恒常的情報リソースとしての役割りを果たす。昨年開始した電子配信(PDF版)を継続する。

(3) 核軍縮: 日本の成績表 - NPT(13+2)項目に関する評価

2005年に向けた核廃絶キャンペーンを支援する活動の一つとして位置づけ、継続して取り組む。今年は、「成績表案」をウェブ上に公開し、意見を集める。

(4) 核軍縮議員ネットワーク(PNND支援)

日本ネットワークの活性化にNGOとして支援する。梅林代表が国際PNNDの東アジア・コーディネータ。4月のNPT再検討会議準備委員会に合わせて、PNNDニューヨーク会議が開催される予定。これに向けて、日本の議員の参加を促進する活動に取り組む。

(5) 出版物の販売努力

「核兵器撤廃への道(かもがわ出版)」「ミサイル防衛 大いなる幻想(高文研)は、いずれも2002年度に出版した。後者は、

米国のミサイル防衛実戦配備や日本の本格導入という事態を
考えるための重要な文献であり、重点的に販売する。

(6)日本の情報公開法を活用した防衛・外交問題の調査

(7)調査プロジェクト「米軍」

昨年度着手した「米軍海外基地動向調査プロジェクト」を中
心に財政の許す範囲内で取り組む。

(8)執筆、講演、出演、取材への協力

(9)海外活動への派遣

(11)公開講演会・セミナー等の開催

(12)ウェブサイトの充実

組織体制の整備

(1)中期ビジョン委員会の継続

2004年事業計画は「改訂中期ビジョン」に基づいて策定さ
れている。次の重点施策を通して、4年間で、経常黒字財政への
転換を実現する。

2004年度9月に、常勤スタッフを3人体制に復元する。

新装「核兵器・核実験モニター」新版イヤブック「核軍縮・平
和・自治体」を主軸に、会員数増加を含めて、3年間で、対2003
年度比約300万円の正味収益増を生み出す事業に育てる。
ボランティア、インターン、臨時スタッフの拡充による活動の
強化、企業・個人寄付金、活動助成金の拡大による組織強化に
よって、3年間で約100万円の正味収益増を実現する。

(2)理事会とスタッフの新体制

2003年から田巻理事が専務理事(非常勤)に就任し日常運
営を統括している。しかし、日常運営を統括するには、非常勤
ではおのずと限界があることもまた事実である。しかも、本
事業計画を含めた財政健全化を実現するためには、研究活動と
並んで営業・渉外能力をいっそう高める必要があり、そのため
には2004年9月を目標に、新規採用によるスタッフ三人体制の
確立を目指す。

新スタッフの人選にあたっては、研究活動の拡充を最優先
させることとするが、理事会、事務局の任務分担の再編成を同
時並行で進めて、渉外、営業機能の強化を図る。一方、理事
体制についても引き続き意識的に議論していく。ピースデポと
しては「良いリソース(出版物など)」を創出することに加えて、
それを如何にプロモートし、収入=財政基盤の拡充へとつなげて
いくかがきわめて重要である。この点をたえず留意して人的
体制の拡充につとめていく。

(3)会員、出版物固定読者の拡大:数値目標の設定

新規入会者の獲得が、退会によって相殺されるという構造
を乗り越え、組織の拡大を図る。今年は、正会員20人増、モニ
ター読者30人増に加えて、「モニター」の団体大口購読者(年
間会費10万円を想定)を3口の新規獲得を目標とする。また、
「新版イヤブック」については1300部を発行し、完売を目標。

(4)ニューズレターの発行

(5)ボランティア、インターンなどの活用

(6)企業・個人寄付金、活動の包括的助成をする助成金の開拓

退任役員です ありがとうございました!

今総会において、設立以来ご助力いただいた理事の
服部学さん、前田哲男さん、監事の青柳絢子さんが退
任されることとなりました。退任にあたっての前田さ
んからのメッセージと、総会での青柳さんと服部さん
の退任挨拶を紹介します。

青柳絢子さん



私は、ちょっとビールの好きな
せいですが、消化器を壊しまし
て、時々すい臓がいたむもので
すから、少し体調を崩しており
ました。それで、ちょうど任期が
切れ目になりましたので、引か
せていただくことにいたしました。
私の後任は、大澤一枝さんと
いう、もう20数年来の同士です。20
年位前はずっと活発にやってたんです
けれども、一緒にいろいろと活動してまいりました。彼女は私
より10歳も若くてバイタリティーにとんだ方ですので、必ずや
ピースデポに貢献してくださると思って大変喜んでおります。

服部学さん

ようやくクビにさせていただいて、
本当にありがとうございます。

ピースデポには、本当にお世話
になりました。何の因果なのか知
りませんが、私は原子力家とい
うことで、半生を過ごしてきました。
そんなことからやっぱり、「核兵器・核実験モニター」くらい
情報がちゃんと読めるものが必要
で、これは本当に梅林さんや、田巻
さんや、その他の方々のおかげでいろんな情
報を知ることができました。本当にありがたかったと前から
思っていました。

実は、私はこの8年ばかりの間に脳梗塞で2度倒れまして、そ
の他に潰瘍をやったり、それから、アニキサスとかいう寄生虫
がいたり、入院ばかり繰り返しました。また、先ほどまで会場に
私より年の多い方がいらっしたんですけれども、私はまだ、
日本人の男性の平均寿命78年何ヶ月かで、4ヶ月ほど足りない
まだ若者でございます。

幸いに脳梗塞のほうは治りまして体はどうやら一応元気に
なりましたし、それほど意識障害も残らなかったんですが、
やっぱりボケのほうは普通の方よりだいぶ早く来てしまったよ
うですね。これは「俺はまだぼけてないぞ」と言い出したらお
しまいなんです。私は、十分にぼけたことがわかっていますか
ら、もうこの辺でお役御免にさせていただいて、後は元気な会
員でお手伝いをしていきたいと思っております。

幸いに今、横須賀に住んでおりますが「原子力空母の横須

賀母港問題を考える市民の会」という市民運動をしておりますので、中心となっておられる呉東弁護士のお手伝いをするくらいのことなら、同じ横須賀の中ですから何とかできるんじゃないだろうかと思っております。一生懸命できる範囲でやっていきたいと思っております。呉東さんや私の「市民の会」についても、是非皆さんからお力をお借りしたいと思っておりますので、どうぞ、宜しく願い申し上げます。本当に皆さんありがとうございます。

前田哲男さん

取り立てていべきほどの貢献をなしえなかったことに忸怩たる思いを噛みしめています。在任中の印象をいえば、理事会は位は高いのですが、実際は事務局のプログラムを承認するための並び大名の役割以上のものではないのではと感じていました。もちろん、わたしの努力不足が原因のひとつであることは認めますが、もう少し開放的で活動的にしないとピースデポの存在を外に向けて発信するNGOにならないと思います。



イラスト:志水奈那子

ともあれ、今後も会員として活動に加わるつもりですので、これら弊風改善を含め、微力を尽くすつもりでいます。DPRKにかこつけたMD共同開発配備に向けた準備と、その前段としての脅威煽り立て、日本海における日米MD共同運用への試行的な対抗措置などが、すでに動きだしています。市民運動としての実践的な反核運動と、具体的で説得的な対抗構想が求められています。ピースデポの役割は益々重要です。短い間でしたがお世話になりました。

新任役員です よろしくお願ひします!

今総会にて、新任された理事の小笠原公子さんから寄せられたメッセージと、総会での大澤一枝さんの挨拶を紹介します。

大澤一枝さん

服部先生も青柳さんも本当にご苦労様でした。ありがとうございました。私は、もう微力ではございますけれども、引き受けさせて頂くことになりました。



今、本当に服部先生のお話を伺って、当時を思い出します。84年の長崎で開かれた原水禁世界大会の原発の分科会に出たんですね。その時は、男性の中に女性が2人か、3人しかいない分科会でした。場違いだなと当時は思いましたが、そういう時期から、もう20年ですよ。その時、私は初めて原発の恐ろしさを知りました。

そこからスタートして、神奈川県基地の多いことや沖縄のおかれている現状や、原発、あるいは反核、基地問題を、私は、消費者というか商品自体を主に手がけている生協グループの中で、組織的に運動をやったということだったと思います。そうして思うことはやはり運動家は持続力が大事だと思います。

また、もう17年前ですが、チェルノブイリ原発事故の現場にも立ちました。けれど、確かに現場はあるんですけども、問題が本当に風化されているような感じがしました。説明と現場の現状認識がずれている感じがしました。人類というのは、また繰り返し、また嫌な事を起こすに違いないような悪い予感がしました。けれども、こうした経験から関わることになったのですが、貴重な情報源の基地としてのピースデポに少しでもお役に立てればと思います。宜しくお願いいたします。

小笠原公子さん

今日は、既に決まっていた予定があり、欠席させていただき失礼をお許しください。メッセージをということですので、今気にかかっていることと、ピースデポへの思いを以下、一言述べさせていただきます。



今、米国主導の戦争が世界を引き込み、すくなくからぬ人々が、戦争があたかも平和のために不可欠な手段であるかのように説得されつつあるように思えます。一方では、かかってない多数のひとつとが反戦集会に集い、真剣に平和への思いを表明しています。しかし、「国際貢献」の美名の下、軍事力を国際紛争解決の手段としては放棄したはずの日本が、イラクに陸海空の自衛隊を派遣しました。自衛隊派遣は、米国との関係を最優先させ、いわゆる「コッカの威信」を示そうとする政府の姿勢によると思います。しかし、自衛隊の一人一人も主権をもつ人々であり、コッカが自由に使う駒ではありません。日本国憲法の下で、自衛隊員を、血を流し、流させる場に追いやる権利は誰にもないはずで。

私たちは、「ごりおし」に説得されてはならない、不当な事は不当であるとして、チェックをかけていく必要があると思います。コッカの行為に治してチェックをかけていく責任を、私たち一人一人が持っていると思います。この責任を行使する手段はさまざまですが、ピースデポが実践してこられた地道な情報収集と研究、それに基づくロビーイングは、派手ではありませんが、じっくり着実に作用し、その効果が広がっていくものだ、日頃から感服し、心から頼りにさせていただいていました。第一級の信頼できる情報にもとづいた方向性の示唆と具体的な提言活動は、今後も平和活動を支えてくださるものと思います。

このたび、尊敬する田巻さんより、理事にというお話をいただき、胃が痛む思いで悩みました。しかし、足りないものではありませんが、お引き受けさせていただくことに致しました。一生懸命勉強させていただきますので、よろしくお願い致します。どんなお役にたてるか、じっくりしかしなるべく早く見つけ出したいと考えています。よろしくお願い致します。

総会に寄せられた みなさんからのメッセージ

今年の総会に寄せられた会員のみなさまからの
メッセージを紹介します。(掲載は50音順)

梅林さん、皆様方のご努力に感謝いたしております。小生、宇都宮軍縮研究所を退官しましたが、故宇都宮徳馬先生の意志を引き継ぎ、私自身の責務として核廃絶平和な世界実現のため微力を尽くして参りたいと存じております。(西ヶ久保喜美雄)

ピースデポの名(命名)は地球(人類)に戦争のない平和な人類社会を築くための事業推進の兵站(基地)を目指したものであると思う。誠に、壮大にして必須の事業である。役員の皆様の必死の努力が、私の衰脳を刺激して痛いほど分かる。然し乍ら、目的達成のためには具体的には人類全体維新(人類全協和新文明建設の大行進)を思いつき、感じて歩き出さねばならない。その下準備に、ピースデポは、別途人類21世紀新秩序建設(地球環境回復、核文化廃絶、武器・発電他)海陸生産正常生産性、いわゆる南北文明格差修復などの地球人類の文明の現状認識(用意し、湧き上がる新しい会員を獲得する必要があると思う。(阿部弘)

「核兵器・核実験モニター」の紙面刷新はレイアウトの工夫によって読みやすくなったという側面と、時宜に合ったテーマを設定し、豊富な原資料を配置した論説・記事によって情報誌としての価値が格段に高まったと思います。また、副題「軍事力に頼らない安全保障体制の構築をめざして」を設定したことは本誌及びピースデポの基本方針を明示することであり、大変効果的です。

モニター203号に平和市長会議の「核兵器廃絶のための緊急行動 - 2020ビジョン」が採録されたことを高く評価します。この提言は2003年11月の「第2回核兵器廃絶 - 地球市民集会ナガサキ」の第7分科会で提起されましたが、時間の都合なのか十分な討議も周知もされなかったのを残念に思っていたことでしたから。

長年提起を続けてきた東北アジア非核地帯構想が多くのの人々の関心と賛意を得るようになったことは嬉しい事です。現今の東北アジアの不安体状況と朝鮮共和国敵視の世論は極限にまで達していますが、地域の各国間の信頼醸成とこの構想の実現が一歩一歩前進することが期待されます。

軍事立国への傾斜を強め軍事増強が進められている国情の中で、現実を踏まえた専守防衛論は軍縮へのプロセスとして有意義だと思います。しかしこれは自衛権としての軍事力保持を前提としています。日本国憲法は一切の軍事力の保持を否定しているとの論に根拠がありますし、これに与する意見も決して少数ではありません。改憲論議が政治日程にまで上がってきている現在、具体的な安全保障のあり方と憲法(絶対)平和主義との関係についての論評も望まれます。(荒川譲)

欠席します。ご苦勞様です。(猪野修治)

「モニター」の紙面の中に読みやすいトピック、あるいは実感的な記事があると全体の印象が近づきやすいものになるのではないのでしょうか。「大事そうなことが書いてあるけど、読むのはちょっと後回し」ということが度々あるので、ますますのご活動の発展を願っています。(井野博満)

現在の政府は、国民の意見に耳を傾けることなく、アメリカ政権に追随し、自衛隊のイラク派遣を強行し、障碍となる日本国憲法を改悪しようとしています。軍事力に依っては国際関係が改善されないことは太平洋戦争によって我々が学んだ最大の教訓です。この教訓を生かし平和的解決の道を歩むべきだと思います。(今田斐男)
ご盛會を祈ります。(岩崎正)

拉致問題を発端とした日朝関係の悪化は米国のイラク戦争に対する日本の対応をめぐる世論の動きに大きな影響を与えています。

その意味で、北東アジア非核地帯という構想を一般の人々に広く認識してもらうことがますます重要になっています。そこで、一番効果的なメディアとしてのテレビを何らかの方法で活用することはできないのでしょうか。(鶴飼礼子)

日曜日ですが、この日は特別に仕事が入っておりまして出席できません。申し訳ありませんが、欠席いたしますので、どうぞよろしくお願いたします。(宇都宮京子)

ピースデポをいつも拝読させて頂き、皆様のご活躍に感謝申し上げます。核兵器の悲惨な力、原爆資料展を見たとき、目を背けたくなる姿には言葉で表すことの出来ない絶望感を感じました。国家や宗教の枠を超えて活動の輪を広げていただき、宗教戦争のない、人権や環境など、国際社会と運動してピースデポの発展をお祈りいたします。(大藪貞子)

ピースデポの今年度の活動が市民の平和への強い意志を一層強い力にない合わせることを期待しています。(川合葉子)

いつも多くの問題提起や資料を提供していただき、学び活用させてもらっています。ご苦勞様です。今後ともご指導ください。期待しています。がんばってください。(川路孝)

本来、メディアが常時、市民に提供すべき重大な情報を民間の手によってしか得られない状況には、問題を感じるが、ピースデポの方が良くがんばってくださって感謝しております。(岸恵子)

ご苦勞様です。出席できませんが今後とも宜しくお願いします。(小橋川清弘)

実り多い総会となりますよう祈念いたします。北東アジア非核地帯構想の実現こそが、日本の取り組むべき緊急の課題であると考えます。(小林善樹)

ピースデポは他にはない貴重な活動を続けてくれています。継続と一層のご発展をお祈りいたします。(小沼通二)

日ごろの活動に敬意を表します。地道な取り組みの成果は、私にとって議員活動を進める上で貴重な提案と受け止めています。益々のご活躍と御隆盛を祈念申し上げます。(斉藤勤)

イラク派兵、改憲。そして、私の新津市では、大新潟市への吸収合併による政令指定都市志向がファッショ流の攻撃で強行されようとしています。「うそでも百ぺん言えば本当になる」が恥も外聞もなく、圧倒的ななぐれになるとは!貴會の発展を祈っております。(桜井久雄)

他の予定と重なってなかなか出席できません。あしからず。(柴田迎春)

ご健闘お礼申し上げます。(菅沼純一)

新規入会とほぼ同数の退会者がいることは気になります。2005年、被爆60周年に向けて反核運動の大きな結集が期待されます。(菅原和之)

いつも貴重な情報を発信していただきありがとうございます。学生層にこうした情報が共有されていないのを残念に思います。教育の中に反映させる工夫をしなければと考えています。(杉田明宏)
第5回総会の議案書、克明にはありませんが通読しました。実に大切に意義深い活動をして下さっていること、ただの読者であることが申し訳なく思えるほど、感服し、敬意を表します。小生も、宇治世界遺産を守る会代表世話人、京都・文学館設立を求める会副会長、その他非核の政府を求める京都の会常任世話人として、片手間ながら引き続き読者であり続けるつもりです。組織体制、財政とも課題は重いことよくわかります。(須田稔)

体の調子思わしくなく大変遅くなりました。私などが助言者になるかどうかと思っていますが、一言だけ、本当に危ない時代になってきました。「戦前」からもう「戦中」になったのではないかと。自衛隊派兵も仕方ない、「人道支援」だというマスコミの論調のもと、世論が急速に変わり、改憲も仕方なしの風潮が急速に高まっているのが気になります。しかし、第二次大戦の時と今と一番の差は今情報がとにかく手に入ることです。ピースデポの役割の重要性は益々増え、情報を手に入りたい人を一人でも増やすこと。正しい情報を知ることの中から、市民の側からの「政策」も生まれます。ピースデポの益々のご活躍と発展を期待しております。(関千枝子)

イラク戦争の間違い、1)事件の発端は、9.11テロにある。テロはどんなに凶悪大規模でも司法に委ねるべきもの(アメリカは国際刑事裁判所に加わっていない)プッシュ大統領は、これを挑戦と決めつけ先制攻撃に出た。2)テロの根絶には、その原因を究明し、これを除去するのが原則なのに、プッシュ政権にはその省察がなく、原因を温存している。3)世界歴史上、反映し続けた国はない。超大国アメリカが間違いに気づかず、これを続ければ、没落の第一歩だ。4)小泉首相は、この理をもってプッシュ大統領を説得すべきだったのに、真っ先に支持を表明し、憲法擁護の義務を放棄した。しかも、これを合憲と言い張りながら、改憲するという。矛盾ではないか。対策としては、1)7月の参院選、11月の米大統領選で、小泉、プッシュを退陣させること。2)人の命を金儲けの手段とする産軍複合体の正体を明らかにすること。これはマスコミの使命。3)マスコミが、広告に頼らず経営できるように、市民が協力すること。「ピースデポ」などの会員を増やすこと。(関口八郎)

ピースデポの働きが益々大事な状態になってきました。これまでの積み重ねが大きな財産であると共に、今後の世界の情勢の中で果たすべき役割は重大です。核軍縮、非核地帯構想こそ平和を創り出すポイントです。各地でがんばりましょう。(竹村泰子)

改革・革新を叫ぶ団体或いは政治がなぜ大きな力になり得ないか。ピースデポの会員数が増えないことも気掛かりですが本音の話が堂々と出ないこと、それは日本の「世間」の中に埋没しているからです。また、国の進路の危うさが原因だと思います。偶々、私は梅林氏のラジオ放送の終わりの部分を聞いただけで、即ち北東アジア(日・韓・北朝鮮)の安全保障圏を提案し、北朝鮮の核廃絶を促すといった考え方を聞き、入会を決めました。米国の傘の下で飴と鞭の方法を政府自らが広言している姿には拉致解決の方法も含めて呆れていたところでした。私は明治以後エスカレートして昭和の大東亜戦にまで、何故日本が突入したか、その検討をしっかりと、特に昭和の現代史を勉強せずにいる政治家(政党)によく理解してもらい、それを育てる必要が大切と考えます。敗戦時、アメリカの介入があったにせよ、憲法9条については全員がほとんど、素直に肯定していたのですから。核廃絶のこともそこから、疑うこともなく賛同可能なことです。ただ、それを希望のある国の力として生きていける形で国の進路を示していけなかった間に、昔を忘れ、次々と好魔が押し寄せてしまいました。(千葉胤高)

すでに予定あり、失礼いたします。(土井たか子)

北東アジアの安定平和をめざして関西でもピースデポの会員拡大に取り組みたいと思っています。(中川康生)

厳しい時代が続きますが、頑張ってください!!(中里英章)

ご盛会と益々のご発展を祈念します。(中島修)

ご盛会を祈ります。(成見憲治)

いつも充実した資料と活動ありがとうございます。日本の活動の主流として今後ともよろしく願いいたします。(西成辰雄)

2ヶ月間の予定でニュージーランドに行きます。昨年の暮れに1ヶ月間コスタリカへ行ってきました。どちらの国も反核(NZ)軍隊がない(コスタリカ)国です。日本人として恥ずかしいです。今の日本をどのようにしたら引き戻せるのでしょうか。(橋爪文)

出席できずすみません。とても出席したいのですが。(長谷川りょう子)

今現在、ピースデポの活動が求められている町で会員を呼びかけていますが、中々困難です。所用で欠席となりますがご盛会を祈ります。(浜広信)

北東アジア非核地帯の設置を展望するものとして、ピースデポの活動に期待すること大です。(引間博愛)

ピースデポの優れた活動に心からの敬意を表します。今後の益々のご発展を記念しております。(藤田高景)

毎年1回「世界軍事情報(もしくは、データブック)特集」のようなものを出し、各国の軍事費、兵員数、核弾頭及びその運搬手段、武器輸出入状況と平和運動の状況、主な平和団体の連絡先などを載せていただければありがたいです。別売りでもかまいません。近年「SIPRI年鑑」は和訳が出なくなり、イギリスのものは活用がためらわれ

るので。国連等の平和に関する重要な決議(宣言・行動計画)などを載せてください。「平和の文化」に関するものなどは、ユネスコ国内委員会によって完全にニグレクトされ、一般のマスメディアにも取りません。(藤田秀雄)

平和と民主主義の原理原則が、なし崩し的に破壊されつつある。ますます本会の活動が重要になってきています。皆様のご努力に感謝しております。(松浦興一)

ピースデポの活動を強めるにはやはりピースデポ代表の国会議員を一人でも多く選出する必要があると思います。それにはピースデポの活動を広く宣伝することが大事でしょう。実際にこのような行動をとっていると思いますが、ピースデポの政策に近い主張をしている雑誌(たとえば世界、週刊金曜日など)や政党などと連携をとって、少しでも活動を高めるようにされたいかがでしょうか。私も、微力ながらいろいろな人に入会を勧めているのですが、年会費12,000円と聞いてしり込みする人が多いのです。やはり不景気のせいでしょうか。総会には残念ながら先約があり出られません。会の発展を祈っております。(松田常雄)

人間は何という恐ろしいことを始めたものでせう。80才になろうとする、たいした学問も身につけていない私ですから、立派な意見など言えるものは持ってありませんが、おろかな手前勝手な国民が多勢いることが悲しいです。お役に立てなくて申し訳ありませんが、どうぞ宜しくお願いいたします。(三堀みずゑ)

遅くなり申し訳ありません。今、日本はまさに曲がり角に直面しています。曲がってしまうと改憲、軍隊、世界各地への派兵、そして核武装へとハイウェイの道を進むでしょう。今が正念場です。(森口貢)

モニターを毎号読みこなすのが大変ですが、貴重な資料として保存しています。(矢野亮)

本当に大切な時代の節目だと思います。そのような時だからこそ、怒りと対決の姿勢ではなく、一人一人の意志と決意によって平和を一歩ずつ創っていく、導いていくしかないと考えています。無抵抗ではなく、相手に手を振り上げさせない会議と外交、そして一人一人の意識への呼びかけを重視していきたいと思っています。どうぞ、どんどん具体的に呼びかけ、資料、情報を提供して下さい。どうぞよろしく。(湯川れい子)

会の益々の発展を望みます。(吉田光明)

非戦を選ぶ演劇人の会で活動しております。普段の仕事で忙しく、なかなか伺えないが、講演や文筆活動で、核兵器反対、戦争反対を言葉で言い続けたいと思っています。(渡辺りょう子)

いつもニュースレターを楽しみにしております。(渡辺裕文)

国際的活動

11月20日 MPI訪問団来日、外務省へ。

11月22日 ~ 24日 第2回核兵器廃絶 地球市民集会ナガサキに参加・協力。

事務所の動き

12月2日 宜野湾市主催シンポジウムに梅林パネリスト出演。

12月15日 リニューアル合併号200・201号発行。

1月24日 第17回理事会。

2月2日 母港問題を考える市民の会の呉東さん来所。

2月12日 学生インターン受け入れ。(3月26日まで)

2月21日 ピースデポ総会記念イベント「ビキニ水爆被災50周年研究集会」開催。

2月22日 第5回NPO法人ピースデポ総会。

3月2日 梅林、静岡でのビキニ50周年記念集会出席。

3月5日 北東アジア非核地帯・公開セミナー開催。

3月21日 成績表評価会議・長崎に梅林出席。

3月27日 広島。

編集後記